

プレスリリース（2019/8/23 配信）

エラ・ガンディー氏はじめ宗教指導者らが、女性に対する暴力を乗り越える取り組みを主導

第10回世界宗教者平和会議ドイツ・リンダウ大会第三日目

主な出来事：

公正で調和の取れた社会に向けた提言、ウガンダ紛争における協議プロセス、午後のワークショップ、短い対話式（TED 式）プレゼンテーション（「ライトニングトーク」）、宗教代表者と国際外交団との会合

2019年8月22日、ドイツ、リンダウ

第10回世界宗教者平和会議（WCRP/RfP）全体会議において、ガンディー開発財団理事兼 WCRP/RfP 国際共同会長のエラ・ガンディー氏は、女性に対する暴力、とりわけ性暴力を克服するための具体的な活動を「行動に向けて」セッションの中で発表した。同セッションで WCRP/RfP は、本大会にも参加しているケニア人の女性人権活動家ワング・カンジャ氏を支援、そして、ケニアでレイプ被害にあった女性たちの正義を促進するためのメソッドを開発したレスター大学犯罪学部の英国人科学者リサ・スミス氏へはさらなる開発・検証を進めるための援助を行う。彼女のメソッドは、レイプ被害へ犯人の DNA を手掛かりとして残すためのキットを提供し、これを裁判での重要な証拠にするというもの。この検証が上手くいった場合、WCRP/RfP はケニアのみならず、世界各国でこのキットが入手可能になるよう支援する意向である。

全体会議では、ウガンダ・最高評議会指導者であり、WCRP/RfP 国際共同会長兼 WCRP/RfP アフリカ委員会共同議長シャバン・ラマダン・ムバジェ師と、ウガンダのグル大司教ジョン・バプティスト・オダマ大司教がウガンダでの経験を発表した。ウガンダ諸宗教評議会、地元の WCRP/RfP 委員会、東アフリカ共同体（宗教間協議会）、および WCRP/RfP アフリカ委員会と協力し、WCRP/RfP はルワンダとウガンダの国境の開放を提唱。両国間に対し対話に開かれた姿勢を求めた。

午後の「行動に向けて」セッションでは、ワークショップ、「グローバルギャラリー」、「ライトニングトーク」「宗教と外交」をテーマにしたプログラムが用意されている。大会参加者は、そこで意見交換などのワーク、TED 式のプレゼンテーションの観覧、パネルを用いての先駆的事例の研修、高位外交官とのディスカッションを体験することができる。「ライトニング・トーク」においては、地元のリンダウ市民も交え、世界中の宗教者や平和活動家から短い講演、個人的なストーリー、

心動かされるアイデアなどを聞くことができる。登壇者には、持続可能な開発センター代表兼持続可能な開発目標担当国連事務総長特別顧問であり WCRP/RfP 国際トラスティのジェフリー・サックス教授、米国ユダヤ人協会諸宗教対話部長兼イスラエル WCRP/RfP 国際共同会長デビット・ローゼン師やボスニア・ヘルツェゴビナ出身のイスラム平和活動家レイラ・ハサンディンディック氏らが名を連ねる。

詳細情報と写真:

<https://ringforpeace.org/press>

<https://rfp.org>

#rfp19 #ringforpeace #religions4peace

facebook.com/ringforpeace

instagram.com/ringforpeace

twitter.com/ringforpeace

報道関係への問い合わせ:

General: presse@ringforpeace.org

Katja Bettermann, bettermann@betternau.de, +49 151 14567140

Lena Hackforth, lena.hackforth@ringforpeace.org, +49 176 568 770 84